

福岡県の主な農産物の生産状況

平成 31 年 3 月 15 日現在

(専技情報より抜粋)

◇麦類◇

生育は、11 月下旬播きが 8 葉期で平年より 10 日程度早く、12 月播きは 7 葉期で平年より 10 日程度早く茎数は平年より多いです。出穂期は、今後の気温により左右されますが、11 月下旬播きで平年より 7～10 日早い 3 月下旬～4 月上旬と予想されます。

排水口の手入れや枕地作溝、溝さらえ等の排水対策を徹底し、「ラー麦（ちくし W2 号）」「ミナミノカオリ」は、穂揃い期追肥の準備を行いましょ。赤かび病の対策は、小麦とはだか麦では開花期（出穂後 7～10 日）、大麦では葍殻抽出期（穂揃期後 10 日頃）に実施し、赤かび病に弱い品種や多発生が予想される場合には、7～10 日後にもう一度実施しましょ。

◇アスパラガス◇

保温開始は 1 月中旬以降と平年並です。温暖傾向で出荷開始は平年より 10～14 日早く 1 月下旬頃となりました。数量も順調に増加し、現在は春芽の出荷最盛期となっています。収穫物の太さは平年並です。平年より気温が高く、若茎のヤケや心止まりがみられます。病害虫の発生は全体的には少ないですが、アザミウマ類の発生が一部で見られます。

ハウスの温度管理は、日中の 30℃を超えないように注意し、立茎時期は、出荷量の減少や生産物の太さ等で総合的に判断して遅れないようにしましょ。また、病害虫対策を徹底しましょ。

◇冬春ナス◇

2 月中旬以降に出荷量が増加し、現在も果実の成り込みが多く着果負担が大きいため、草勢は低下傾向です。3 月下旬以降は出荷量が一時的に減少する見込みですが、芽数は多いため、4 月下旬以降は再度出荷量が増加する見込みです。曇天後の急な晴天により、一部で日焼け果が発生しています。また、灰色かび病の増加や草勢低下によるすすかび病の一部発生、アザミウマ類やコナジラミ類の増え始めが見られます。

温度上昇に伴い芽のふきや側枝の回転が急激によくなるので、かん水や追肥の回数を増やし、摘葉や芽の整理を行いましょ。また、換気、湿度管理、発病葉の持ち出し等により病害対策を行いましょ。

◇イチジク◇

12 月中旬加温の「とよみつひめ」は、展葉 13 枚前後で果実肥大期です。1～2 月の日照時間がやや多く高温傾向で推移したため、生育は昨年より並みからやや早い状況です。無加温ハウスでは 3 月下旬～4 月上旬頃、露地栽培では 4 月中下旬頃発芽の見込

みです。

加温ハウスでは、夜間は15℃前後を確保し日中は30℃以上にならないようこまめなハウス管理を徹底しましょう。また、露地栽培では、アルミ蒸着フィルム等を用い晩霜害対策を徹底しましょう。

◇トルコギキョウ◇

1～2月の出荷量は暖冬で天候に恵まれたので平年に比べると多く、販売単価は昨年と同程度で大輪・八重系の品種が評価されたので高い傾向が続いています。春出荷（3～5月）作型の生育は順調で、出荷ピークは3月下旬から4月中旬になる見込みです。

品質向上や出荷期の省力化のためほ場での芽摘みを徹底し、花の小輪化を防ぐため開花期は夜温を12℃以上で管理しましょう。また、斑点病、灰色かび病予防のため、換気や湿度管理等の対策を徹底しましょう。

◇肉用牛◇

2月の肉牛枝肉単価は、和牛は前年並みで推移しています。交雑種相当の省令価格は、対前年比119%、過去5年平均比112%と上昇しました。今のところ牛枝肉価格には、輸出増の影響はまだ出ていません。子牛の防寒対策は継続されています。

近隣国では口蹄疫等、国内では豚コレラ等家畜伝染病が続発しているため、飼養衛生管理基準を徹底しましょう。